

フレーベル會俳句端書集

- 一、課題 常季雜吟一人十句以下
- 一、締切 毎月二十五日限り
- 一、披露 翌々月本誌上
- 一、賞品 三光には景品を呈す
- 一、撰者 當分本會の撰とす、
- 一、投稿 本誌購讀者は何人にも投吟する事を得用紙は繪葉書に限り(眞筆刷物隨意)住所氏名雅號を明記し必らず左の名宛にて送らるべし

埼玉縣入間郡芳野村

フレーベル會俳句掛

鹽野 奇零宛

第十六回俳句端書集

行き暮る、白衣の人やせ原 仙台一 颯

彼岸會や無縁佛も供へ米	宛に角に水の流れも彼岸かな	谷川や梳流したる紅葉狩	月の夜や南畝横きる雁の聲	深山路やこたまに響く秋の聲	月高し妻戸に人のさゝやきて	川一トつ隔て、碪きぬたかな	陣頭の夜寒にかこつ軍士かな	明月や庭一杯に松のかげ	明月や狼澤の池を幾まはり	落葉して雨の音聞く寛永寺	天高く不二の麓野や雁の聲	夕榮の都大路や飛ぶ蜻蛉	鬼灯を虫に喰はれし恨みかな	朝顔の一とつとなりし名残かな	出來稻や黄金の波の夕景色	行く秋や身は雲水の破れ笠	夢睡やあれが隣りの上等兵	新蕎麥に二合の酒や膳の隔	水鳥や數万の兵を走らして	傘なくて山吹の里に時雨けり	萬紅葉御堂の軒の傾きて	槽の火や障子にうつる人の影	富士の山峯白ふして朝寒し	
同	同	同	東京	同	同	同	神戶	同	同	長野	同	大分	同	埼玉	同	武藏	同	同	同	同	同	同	同	同
			ゆかり子				學			曉		春		だるま		白								
							洋			霞		月		ま		樓								

冬の月按摩の宵のいと涼えて
 道端にいと枝ほしき熟柿かな
 朝寒や寝巻一とつで置手
 霧暗れて眺め氣高し不二の山
 昔戀し田面の里に雁の聲
 月にとて取残したり柿三つ
 朝寒や八手の花は眞白にて
 藪かげや芋の葉やせて蔓珠沙華
 蓮の實や飛で淋しき草の中
 豆柿や百文づゝに束れたる
 朝寒や顔も洗はぬ舟の窓
 蜻蛉や魚のはねたる水の上
 雁風呂の屑丈け寒し松の風
 夜や寒し露酒に足らぬ思ひかな
 ちまくと瓜の花咲く殘暑かな

三光

天、朝寒や落ちる木の葉も昨日より 菫玉 白醉樓
 地、月の夜に五戸の礎や五戸の村 大分 春 月
 人、菊の香や天長節の物静か 長野 曉 霞

追加
 朝立の峠三里や霧深き
 勝菊の高き譽れや世界一

鹽野奇零

虫聞くや夜毎憂き喪に籠りつゝ、
 板橋の落ちたまゝなり秋の川
 薄暗き月の戸口や雁の聲
 菊の香や菊の十句に酒の味

同窓會

小林雨峰

八月〇日〇時より町の小學校に同窓會が開かれ
 ると云ふので、此日自分は姪に當るふみちやんと
 云ふ今年十五になる補習科の生徒を連れて、同窓
 會の式場にと臨んだのであつた。

この小學校と云ふのは、元は尋常校の校舎であ
 つたのを、尋常校の方が別に改築されたので、
 高等科の學校に引直して、今歳の春から引移たの
 である、二十年前に建築された建物であるから、
 見るからに古びた造作、處々修繕を加へた言はゞ